

## 佐賀の果樹12月号(病虫害防除)

<露地カンキツ>

### 果実腐敗

収穫や貯蔵作業等の際には果実に傷がつかないように、丁寧に取り扱いましょう。

薬剤の散布は品種によって時期が異なります。年内出荷の早生および普通温州は収穫の7～10日前に①[ベンレート水和剤4,000倍とベフラン液剤25 2,000倍の混用]、②[トップジンM水和剤2,000倍とベフラン液剤25 2,000倍の混用]、③[ベフトップジンフロアブル1,500倍]のいずれかを散布します。①、②では、トップジンM水和剤またはベンレート水和剤を先に溶かし、ベフラン液剤25を後に溶かします。逆の順番で溶かすと、沈殿を生じます。

貯蔵して年明けに出荷する高糖系温州や中晩生カンキツ類では前述の[ベンレート水和剤4,000倍とベフラン液剤25 2,000倍の混用]または[ベフトップジンフロアブル1,500倍]のいずれかを、収穫の7～20日前に散布しますが、特に20日前頃の散布で防除効果が高まります。ただし、薬剤散布後に100mm以上の降雨が認められる場合は再散布が必要です。なお、袋掛けをする品種は袋掛け直前に散布します。

貯蔵する場合は、浮皮の著しい果実や傷果は腐敗しやすいためあらかじめ取り除きます。貯蔵庫内の温湿度が急激に変化しないように注意するとともに、腐敗した果実を見つけた場合には、早急に取り除き、貯蔵庫内から持ち出して適切に処分してください。

### 越冬害虫対策

ヤノネカイガラムシ等のカイガラムシ類やミカンハダニの防除対策として、冬期にマシン油乳剤97% 60倍を散布します。マシン油乳剤は虫体に直接かからないと効果が期待できないため、十分な散布量で、様々な方向から散布したり、樹冠内部にノズルを入れたりして、葉裏や樹冠内部など薬液のかかりにくいところにしっかりかかるようにしましょう。特に近年ヤノネカイガラムシなどの寄生が多くなっている園では、本剤による防除を是非実施してください。ただし、マシン油乳剤を厳冬期に散布すると落葉の原因となるため、12月中下旬を中心として1月上旬頃までに散布して下さい。また、樹勢が低下している樹に対しては落葉を助長するなど悪影響があるため、本剤の散布は避けます。

<落葉果樹全般>

### 落葉処理の実施

ナシ黒星病や炭そ病、ブドウべと病や褐斑病などは病原菌が落葉上に残って次年の伝染源となるため、落葉処理を実施します。落葉は集めて園外へ持ち出すなど適切に処分します。園の隅や樹の近くは落葉が残りやすいので、特に注意して

処理を行いましょう。

<ナシ>

### 白紋羽病

白紋羽病発病樹とその周辺の樹に対して対策を行います。発病樹には、フロンサイドSC500倍を1樹あたり100リットル灌注処理します。ただし、根がひどく腐敗している樹などはフロンサイド処理を行っても十分な効果が見込まれないため、植え替えを検討します。発病樹の周辺樹にはフロンサイドSC1,000倍を1樹当たり100リットル灌注処理してください。

<キウイフルーツ>

### かいよう病

冬季はかいよう病に対する重要な防除期間です。落葉後や剪定作業の前後などにICボルドー66D 50倍を散布して下さい。剪定等の作業は、健全園、健全樹から行うとともに、使用する器具は70%エタノール等で消毒し、切り口にはトップジンMペーストを必ず塗布しましょう。